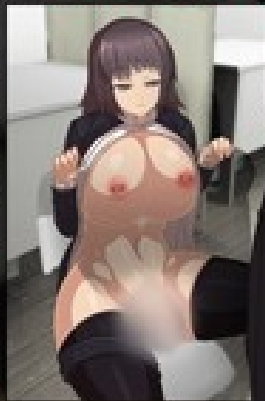


真面目で不器用な 彼女を孕ませるまで



「今日危険日なんだけど・・・聞いてる？」



「おはよう」

「おはようございます、今日は良い天気ですね」



「昨日提出してもらった書類だけど間違ってたわ」

「え、あっ、はい……」

「午前中に修正してくれないと困るわ」

「あれ、あの書類そんな急ぎで必要でしたっけ」



「・・・夕飯」

「ん？あ、そっか、はい、がんばります」

「うん」

「ただいま」

「おかえりー、仕事お疲れ様」



「あなたが書類間違っから大変だった」

「うっ・・・ごめん」

「問題ないわ」

この方はカエデさん
会社では上司、家では彼女
真面目で無口なので周りからは冷たい人なのか？と思われてるけど
今日の夕飯当番が俺だった事をさりげなく教えてくれたり
優しい一面もある・・・あれは優しさだったはず、たぶん、きっと



自分がしつこくお願いして何とか付き合ってもらった
気づいてるのか分かんないけどそろそろ一年経つんだよなあ・・・
この一年言い出せなかった事言ってみようかな

「・・・あのさ、付き合ってから一年経つでしょ？」



「だからその、こんな事今のタイミングで言うのもアレなんだけど、えーと」

「なに？」

「エッチさせてくれ！」

「！」



『。。。』

「(怒ってる？いや喜んでるのか？まったくわからん)」



「夕飯食べるつもりだったから今はタイミングがおかしいわね」

「あ、うん」

「むしろ食事終わってからの方がタイミング的には良かったのでは」

「うん・・・」



「うん・・・え!？」

「うん・・・え!？」

「い、いきなり脱いでななな何を」
「何って・・・するのでしょ？」



「う、うん、そうだけど」

「止めますか？」

「いや何でもないです続けて下さい」

「(うわーおっきい・・・)」

ム
ー
ー
エ
ッ

「何してるの、早く脱いで」

「は、はい」



「.....」

「えっ、じゃあまずはいしゃぶってもらって」

「えっ、じゃあまずはいしゃぶってもらって」



「(ゴックン)」

「ああすごく・・・良い・・・」

アハハハ

あむっ

「(いつもよりだらしない顔してるし悪くないみたい)」





「(さっさと出るのかしら)」

ゴクゴク・・・

ドュルルル

んんん

んんん

ドュルルル...

「ふう・・・あつ、そんな飲まなくても大丈夫だよ？」



「綺麗にしておいた方がいいと思って」

「そ、そっかありがと（意図してないんだろうけど丁寧なお掃除フェラはエロいな）」



「別々」

「さやさしてもらってばかりじゃ悪くない」

「恥ずかしい」
「（そうは見えないけど）」





「痛い時とかは言ってるね」
「.....」
「ムンムン」

ムンムン

ズズズズ.....

「.....」

.....

「(もっと激しくていいかな)」





「あれ？痛い？」
「いえ、そうじゃ……あっ……ん」

アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ

「……」



「・・・あ、あの・・・気持ちよかった？」

「(わかんねー!)(」

「・・・うん」



ふーん

ふーん

んんん

トロォー



「。。。」

「。。。ええと、じゃあ挿れるよ？」

「ええ」

「ドキドキ」

「ドキ」

「（全く表情に出ないな。。。むしろ興奮するけど）」



「(ほぐしたけど・・・ちよっと狭いな・・・)」

「奥まで挿ったね、大丈夫？」
「・・・うん、それと」



「私に気を遣わないで動いていいから・・・」
「ああごめん、では遠慮なく」





「あれ、ここ気持ち良いのかな」

「（中が痙攣してきたな・・・イっちゃえ）」





「いっちゃったね、気持ち良さそうでよかったよかった」
「。。。」

「(さすがにやりすぎたか)」

「横になって」

「横ですか？」

「早く」

「は、はら」

「大丈夫そう？」

『。。。』

「（あつ、これは怒ってるから黙ってよう）」





「気持ち良い？」

「う、うん……」

(奥まで挿ってなくてイクにイケない……)

ワッ

ワッ

ワッ

ワッ

「(……ああもう我慢できん!)」



「はじめっ！」

「っ！」

「っ！」
「っ！」
「っ！」

「っ！」
「っ！」
「っ！」

「っ！」
「っ！」
「っ！」

「っ！」
「っ！」
「っ！」

「っ！」
「っ！」
「っ！」

「っ！」
「っ！」
「っ！」

「ちよっと……君……あんっ……」

「すぐ終わるから！もうちよっとだからっ！」





「ふう……あつ！（やってしまった）」
「……」

はち……
ム

「気持ちよかった？」

「えっ、はい」

「そう……それならいいわ……」

「（あれ？怒ってないのかな？）」

「まだ足りないようなら満足するまで私を使って」

「う、うん（????）」



ゴボ

ゴボ
ゴボ
ゴボ





「はあ……はあ……カエデさん好きい……」

「うん」

「股間が痛いくらい出した……もう出ない……」

ナデナデ

おち……

おち……

おち……

おち……



「じゃあおぼはんの前にシャワー浴びましようか」

「ああそーういえば飯まだだったね、行こ行こ」

「。。。次はちゃんとするわね」

「え？何か言った？」

「いえ、何でもないわ」



「カエデさん、ちよっと会社でこういうのはマズインじゃ……。」
「?。。。鍵ならかけたけど」

「いえそういう事ではなく……。」

「カエデさん」



「(くうっ！すげえ気持ち良い。。。って素またなんていつ覚えたんだ！)」
「勉強してきたの」

「。。。えっ！ど、どこで？」

「あなたの部屋にそういうビデオがあったから」

「ああそういう事。。。」

「じゃあ挿れるわね」



「さっさと出てく……から……」

「あの……気持ちよすぎてもう出そうなんだけど」





グッ
グッ
グッ
グッ

グッ
グッ
グッ
グッ

グッ

「上手になったかしら」

「う、うん！すごく良かったよ（練習してるのは予想外だった）」



「・・・あの、もう一回」

「ええ」

ゴッゴッ♡

ゴッゴッ



。。。コツコツコツ
廊下から足音が聞こえる

「。。。君。。。廊下に人が。。。ちよつと静かに」

「。。。うん」





「……っ！ちよつと……あんっ……静かになって……」
「静かに動きますから」
「それがダメだと……んくうっ……」

ユツサ

ユツサ

あっ

ん

アツク

ん

ユツサ

ギョッ

アツク

アツク



「コツコツコツ。。。
足音は遠ざかっていった」

「ふうー。。。どきどきしたね、逆にすごく興奮したよ」

「。。。」

「。。。すみません」

「びゅん」



「ここだと集中できないから場所をかえましょう」

「う、うん（怒ってるのかと思ったけどまだエッチができるぞ！）」

「二度と会社ではしない」

「ごめんなさい（めっちゃ怒ってた。。。）」



「・・・あの、どうしてこんな事を？」

「？」

ニエツ

ニエツ

?

「こういう所ではこういう事をするものではないの？」

「そうです、まちがってないです（そういう事にしておこう）」



「(ビデオでは確かこうやってたはず……)」

「(よだれで濡らすとかエツ回いなあ……普段のイメージと違いすぎる)」

「トロォー……」

「じゃあ擦るけど、痛かったら言ってね」





「……！」

ん

ん

ん
ん

「こんな大きくされると胸に収まらないのだけど……困ったわ」

「ん、んめん」



「んっ……」

イク
イク
ハッ

イク
イク
ハッ

イク
イク
ハッ

「（この大きなペニスが私の中に挿ってたなんて信じられないわね……）」





トッ

トッ

トッ
チュッ

「……ごめんなさい、飲めなかったわ」

「あ、うん（これはこれで）」

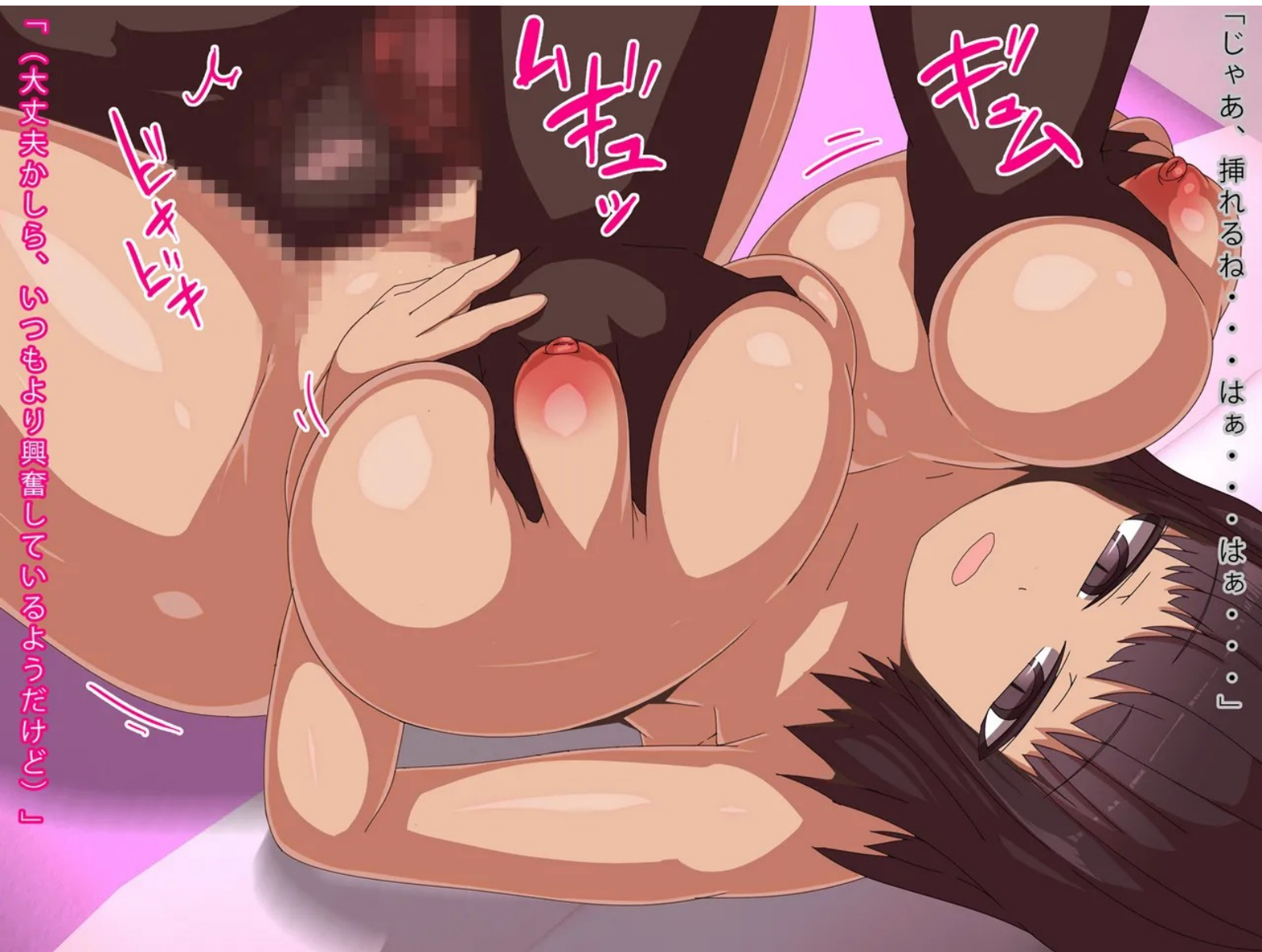
あ……

ゴホッ

ゴホッ

「（それにしてもすごい匂い、ものすごく生臭い……でも嫌いじゃないかも）」





「じゃあ、挿れるね・・・はあ・・・はあ・・・」

「(大丈夫かしら、いつもより興奮しているようだけど)」

キムム

キムッ

ム
ドキドキ



「いつもより・・・カエデさんの肉が・・・絡み付いてくるよ・・・」



「ふう・・・んうっ・・・今日はちょっと・・・変かもしれないわね・・・」









「.....くはあっ!.....はあ.....はあ.....」
「ぎっ、その.....」

「は、はいー」
「○○君」

「赤ちゃんほしいの？」

「……はい！」

「ふん……」

「ふん」
「ふん」





「朝からこんな事して・・・遅刻するわよ？」

「はあ・・・はあ・・・あつ、もうこんな時間！」

「何度か言ったのだけれど」

「ごめん」

「私が休んでる間は仕事増えるのよ？わかってるの？」

「はい・・・」

「・・・がんばってね、あなた」

「は、はい！」



「。。。うん、悪くない」

「ありがとうございます！」



「ところで。。。この後時間あるかしら」

「はい、次の仕事の打ち合わせですか？」

「いえ、仕事ではなく個人的な事」

「？」



「帰る支度ができたら呼んで」

「（会社で仕事以外の事？何だろ）」











































































































































